

今後の市立図書館再整備の方向性について【概要版】

令和6年3月に策定した横浜市図書館ビジョンの具体化に向けて、令和6年第3回市会定例会で報告した「市立図書館の現状と課題」を踏まえ、「今後の市立図書館再整備の方向性」を整理しましたので、報告します。

1 位置づけ

当面10年程度の間、市立図書館全体の再整備を進めるにあたっての基本的な考え方

2 市立図書館が抱える主な課題

①施設環境

- ・近年整備された図書館と比較して狭く、閲覧席が少ない
- ・施設が古く、インクルーシブ対応やデジタル対応が途上

②提供するサービス向上を担う新機能導入

- ・床面積を最大限活用しており、図書館ビジョンが掲げる賑わい・体験等デジタルも活用した新機能導入は困難

③蔵書

- ・現在の蔵書保有量は、市民一人当たりで比較すると他の政令市より少ない
- ・蔵書保存機能を担う中央図書館の書庫収容量は逼迫

④図書サービスへのアクセス性

- ・図書館及び図書取次拠点の設置密度が低く、図書サービスを身近に感じにくい
- ・各図書館が提供する機能に合わせたアクセス性の確保

⑤物流拠点機能の整備

- ・各館の物流スペースの狭隘化に対する物流の強化
(R4年度の図書サービス拠点(図書館+取次所)間の図書の輸送量はH25比21%増)

3 対応の方向性

(1) ねらい

従来の市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活かしながら、提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指す

(2) 取組

柱1 市立図書館の再整備・機能拡張

《従来》中央図書館+17地域館による概ね一律のサービス提供

《今後》ア 中央図書館と身近な拠点である地域館で、交通アクセス・バランス等を踏まえ、提供する機能を分担

イ 1区1館を基本としつつ、時代・ニーズの変化と市立図書館が抱える課題を抜本的に解決するため、新たな大型図書館を整備※

※ 中央図書館は、市立図書館全体の司令塔として、コレクションやレファレンス等を充実させつつ、居心地の良い環境づくりを実施

■時間軸を考慮した地域館の老朽化対策

- ・再整備は、建物の老朽状況や周辺エリアのまちづくりの進捗等を踏まえた実施が基本
- ・短期的な対応として、再整備とは別に、居心地の向上を目指したリノベーションを実施

■一部の地域館の中規模化

市域全体の交通アクセス・バランス等を考慮し、一部の地域館が有する機能・規模を拡大

■新たな大型図書館の整備

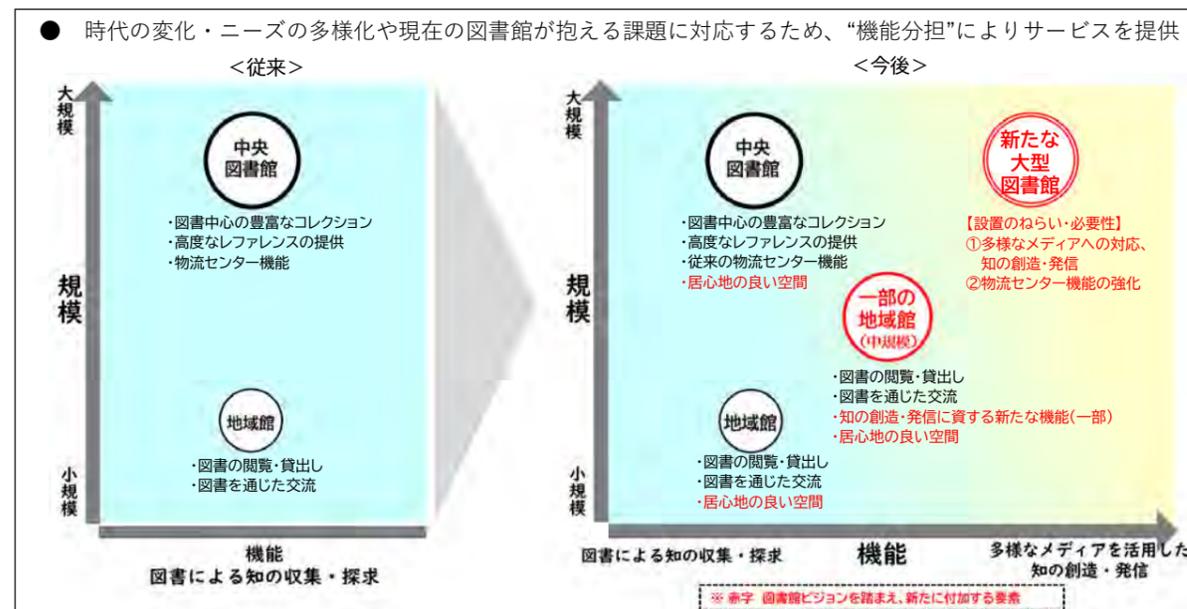
時代・ニーズの変化や市立図書館が抱える課題に早期に対応するため、新たな大型図書館を整備

《設置のねらい・必要性》

- ・図書を含めた多様なメディアへの対応と、知の創造・発信を担う新たな機能・諸室の整備
- ・中央図書館が担う物流機能を強化する、新たな物流拠点の整備

※ R7年度に、新たな大型図書館の立地場所・規模等検討予定

<参考>市立図書館の機能分担による新たなサービス提供体制



柱2 図書サービスへのアクセス性の向上

■図書取次拠点の増設

多くの市民が図書サービスをより身近に感じられるよう、図書取次拠点設置の考え方の柔軟化を検討
《従来の考え方》交通結節点や商業施設での設置を基本とし、サービス空白地域かつ多くの利用が見込める地域にある地区センター等の身近な公共施設においても設置を進める
《今後の考え方》交通結節点や商業施設に加え、地区センターなど市民により身近な施設との連携を市域全体で進め、「図書取次拠点」を設置することを検討

■取次サービスを支える物流拠点整備

図書取次拠点の増設に向けて、市内の各図書館・取次拠点に図書を集荷・配送するための大規模な物流拠点を、新たな大型図書館内に整備

柱3 デジタル技術の積極導入

- ・地域館を含む市立図書館全館に、各館の設備や環境等に応じた、デジタル技術を活用したサービスを順次導入
- ・技術の発展が非常に速いことを踏まえ、「試行」と「改良」を繰り返すアジャイル方式※で導入を進める
※ アジャイル方式 … 状況の変化により素早く対応するため、計画、設計、実装、テストの4つのフェーズを反復的に繰り返しながら開発を進める手法

■デジタル技術を活用した多様な体験の提供

- ・図書館との「接点」を拡大
これまで図書館を利用しなかった方にも興味・関心を持ってもらえる仕掛けの導入
(例)誰もが気軽に選び借りられる電子書籍の拡充
AIによるおすすめ絵本の紹介 等
- ・図書館の新たな価値の創造
これまでの図書中心のサービスでは実現できなかった、知の「創造」「発信」につながる新しい体験の提供
(例)五感に訴求する展示
デジタル機器を活用した創造機会の提供 等



AIによるおすすめ絵本の紹介

■より便利で使いやすい図書館の実現

管理運営の効率化と利用者サービスの向上につながる仕組みの導入
(例)ICタグによる蔵書管理、自動貸出し・返却の実施、案内業務へのロボット活用検討 等

今後の市立図書館再整備の方向性

位置づけ：当面10年程度の間に、市立図書館全体の再整備等を進めるにあたっての基本的な考え方。

(個々の図書館の具体的な方向性は、各図書館の再整備等の際に別途検討)

市立図書館が抱える主な課題

① 施設環境

- ・近年整備された図書館と比較して狭く、閲覧席が少ない
- ・施設が古く、インクルーシブ対応やデジタル対応が途上

② 提供するサービス向上を担う新機能導入

- ・床面積を最大限活用しており、図書館ビジョンが掲げる賑わい・体験等デジタルも活用した新機能導入は困難

③ 蔵書

- ・現在の蔵書保有量は、市民一人当たりで比較すると他の政令市より少ない
- ・蔵書保管機能を担う中央図書館の書庫収容量はひっ迫

④ 図書サービスへのアクセス性

- ・図書館及び図書取次拠点の設置密度が低く、図書サービスを身近に感じにくい
- ・各図書館が提供する機能に合わせたアクセス性の確保

⑤ 物流拠点機能の整備

- ・各館の物流スペースの狭隘化に対する物流網の再整備

対応の方向性

ねらい：従来の市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活かしながら、提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指す

柱1

< 詳細 p. 4 >

市立図書館の再整備・機能拡張

- 時間軸を考慮した地域館の老朽化対策
《基本》建物の老朽化状況や周辺まちづくりの状況等に応じた再整備
《短期》居心地の向上を目指した、各館のリノベーションの実施
- 一部の地域館の中規模化
市域全体の交通アクセス・バランス等を考慮し、一部の地域館が有する機能・規模を拡大
- 新たな大型図書館の整備
時代・ニーズの変化等に対応する、新たな大型図書館を整備

柱2

< 詳細 p.10 >

図書サービスへの アクセス性の向上

- 図書取次拠点の増設
- 図書取次サービスを支える
物流拠点整備

柱3

< 詳細 p.12 >

デジタル技術の積極導入

- デジタル技術を活用した多様な
体験の提供
- より便利で使いやすい図書館の実現

柱1. 市立図書館の再整備・機能拡張

【市立図書館が抱える施設環境等の主な課題】

- ・老朽化・狭隘化、デジタル化の遅れがあり、インクルーシブの観点から、誰にとっても使いやすい快適な環境を提供できているとまでは言えない
例：《本市》施設面積：1,981㎡(地域館平均) 閲覧席：51席(地域館平均) 《近年整備の類似事例平均》施設面積：3,840㎡ 閲覧席：285席
- ・床面積を最大限活用しており、図書館ビジョンが掲げる賑わい・体験等デジタルも活用した新機能導入は困難
- ・蔵書保管機能を担う中央図書館の書庫収容量はひっ迫



●これまでの市立図書館の枠組みを、次の通り、再構築

《従来》中央図書館+17地域館による概ね一律のサービス提供

《今後》ア 中央図書館と身近な拠点である地域館で、交通アクセス・バランス等を踏まえ、提供する機能を分担

イ 1区1館を基本としつつ、時代・ニーズの変化と市立図書館が抱える課題を抜本的に解決するため、
新たな大型図書館を整備*

※ 中央図書館は、市立図書館全体の司令塔として、コレクションやレファレンス等を充実させつつ、居心地の良い環境づくりを実施

(1) 時間軸を考慮した

地域館の老朽化対策

- 再整備は、建物の老朽状況や周辺エリアのまちづくりの進捗等を踏まえた実施が基本
- 短期的な対応として、再整備とは別に、居心地の向上を目指したリノベーションを実施

(2) 一部の地域館の中規模化

- 市域全体の交通アクセス・バランス等を考慮し、一部の地域館の機能・規模を拡大
※鶴見区豊岡町複合施設に入居する鶴見図書館の規模
現在1,500㎡→新5,000㎡
- 知の創造・発信に資する新たな機能を一部備える

(3) 新たな大型図書館の整備

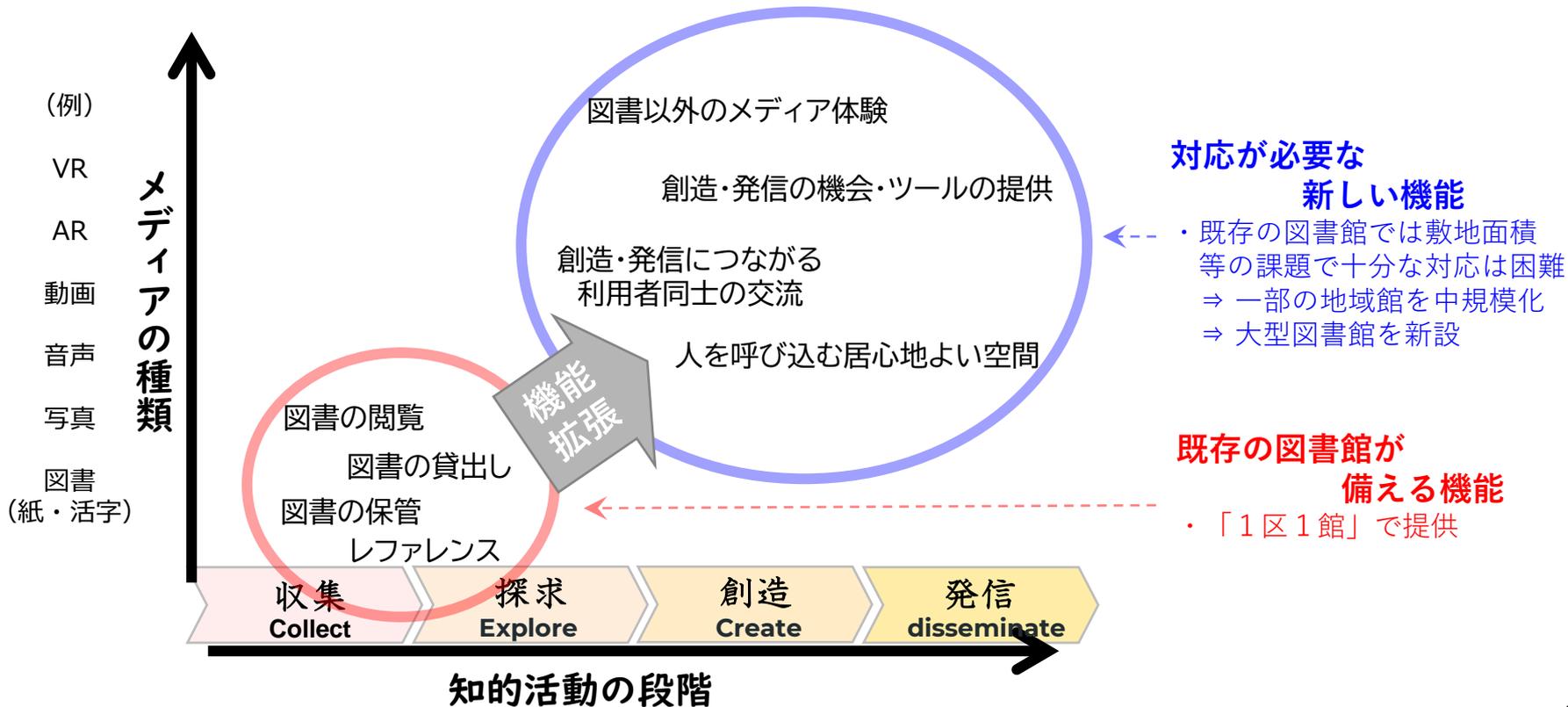
時代・ニーズの変化等に対応する、新たな大型図書館を整備

- 「教育都市 横浜」の知の拠点として、図書も含めた多様なメディアに対応
- 知の創造・発信を担う新たな機能と諸室を備える
- 現在中央図書館が担う物流機能を強化する新たな物流拠点を備える

柱1. 市立図書館の再整備・機能拡張

～時代の変化・ニーズの多様化を踏まえ、今後の図書館に求められるサービス～

- 知的活動の「創造」「発信」が盛んになるとともに、知的活動の源となるメディアの種類が多様化
- 知的活動の段階と、メディアの種類に応じた図書サービスの提供が求められる



柱1. 市立図書館の再整備・機能拡張

～時代の変化・ニーズの多様化を踏まえた新たな図書サービス提供の事例～

- 従来の図書に捉われない、多様なメディアによる情報提供ニーズの拡大
- 近年の図書館では知的活動の「創造」「発信」につながる体験型展示や交流機能を積極的に導入

<他都市事例>

豊橋まちなか図書館【ウェルカムゾーン・アクティブゾーン】



上海図書館東館【“音楽”の体験展示、V Rコンテンツの提供】



石川県立図書館【空間アート体験“ブックリウム”】



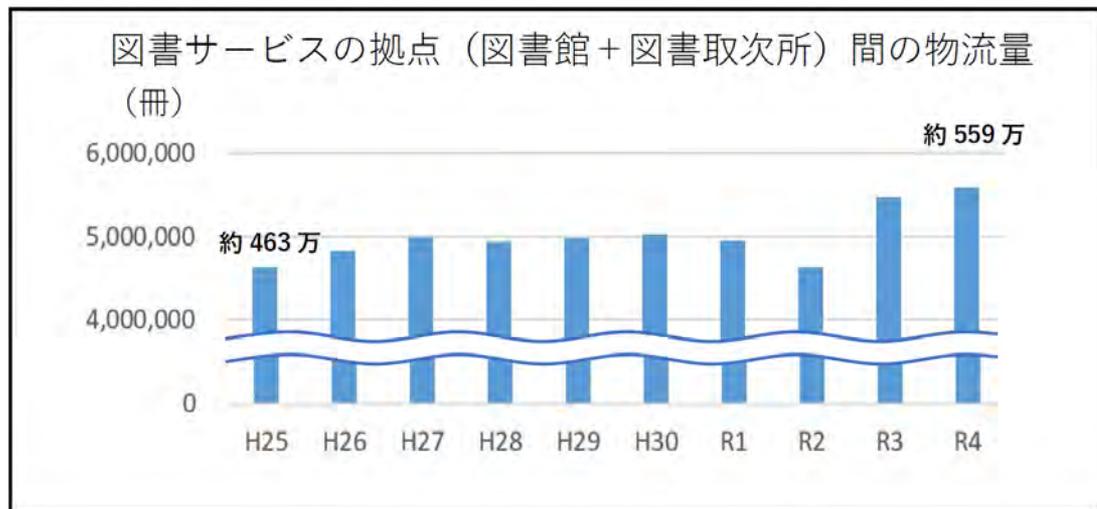
県立長野図書館【信州学び・創造ラボ】



柱1. 市立図書館の再整備・機能拡張

～物流網の再整備の必要性～

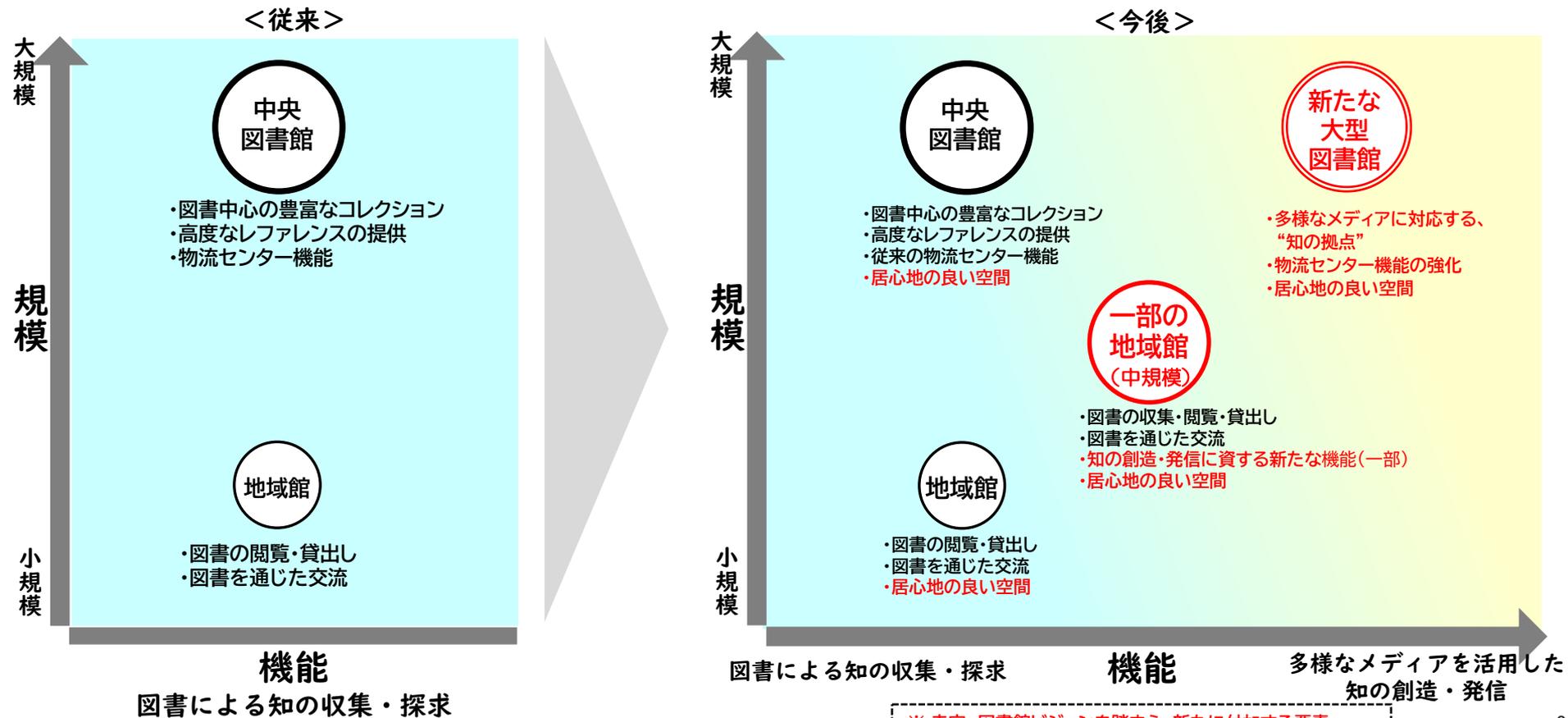
- 図書館や図書取次所間の図書輸送量は、コロナ禍を除き、拡大傾向
- 蔵書充実や図書取次拠点増設には、中央図書館が担う物流機能を強化する、新たな大型拠点が必要



柱1. 市立図書館の再整備・機能拡張

～市立図書館の機能分担による新たなサービス提供体制～

● 時代の変化・ニーズの多様化や現在の図書館が抱える課題に対応するため、“機能分担”によりサービスを提供



※ 赤字 図書館ビジョンを踏まえ、新たに付加する要素

柱1. 市立図書館の再整備・機能拡張

～市立図書館の機能分担による新たなサービス提供体制②～

	中央図書館	地域館	地域館（中規模）
づ げ 置	<ul style="list-style-type: none"> ・広域利用と地域利用の双方を担う、知の収集・探求の拠点 ・市立図書館全体の“司令塔” 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した情報拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域利用も想定した、地域における情報拠点
メ デ ィ ア	<ul style="list-style-type: none"> ・図書（紙・活字）を中心 ・デジタル技術の導入により、多様なメディアにも一部対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書（紙・活字）を中心。 ・デジタル技術の導入により、多様なメディアにも一部対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書（紙・活字）を中心。 ・デジタル技術の導入により、多様なメディアにも一部対応
機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の収集・保管 ・高度なレファレンスの提供 ・市立図書館全体の企画・運営 ・市立図書館を支える人材育成 ・物流センター機能 ・居心地の良さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の閲覧・貸出し ・図書を通じた交流 ・居心地の良さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の閲覧・貸出し ・図書を通じた交流 ・知の創造・発信の場となる機能を一部対応 ・居心地の良さ
主 な 諸 室 （ 例）	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の配架・閲覧スペース ・会議室 ・大規模な書庫 ・のげやま子ども図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の配架・閲覧スペース ・会議・多目的室 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の配架・閲覧スペース ・会議・多目的室 ・知の創造・発信の場となる諸室【例】子どもラボ、カフェ
規 模	約20,000㎡	※ 再整備時は次の規模の確保を念頭に周辺施設等の状況を見て判断	
		約3,000㎡程度	約5,000㎡程度
考 え 地 方	—	—	市域全体からの交通アクセス・バランス等を考慮

新たな大型図書館
<ul style="list-style-type: none"> ・「教育都市 横浜」の“知の拠点” ・中央図書館が担っている物流機能を強化する新たな大型拠点
図書も含めた、多様なメディアに対応
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なメディアの収集・保管 ・多様なメディアの利用・貸出し ・知の創造・発信の場となる機能 【例】多様なメディアの体験 利用者同士の交流 創造・発信の機会・ツール提供 ・物流センター機能 ・居心地の良さ
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なメディアを揃えた配架・閲覧スペース ・知の創造・発信の場となる諸室 ・物流拠点
10,000～20,000㎡程度
市域全体からの交通アクセス性、まちづくりの観点からの拠点性・ポテンシャル等を踏まえ、検討

柱2. 図書サービスへのアクセス性の向上

【市立図書館が抱える主な課題】

- ・本市の市立図書館は、他都市に比べ図書館・図書取次拠点の設置密度が低く、図書サービスを身近に感じにくい状況
- ・図書取次拠点の拡充には、拠点間の物流を支える物流拠点の整備が必要



(1) 図書取次拠点の増設

多くの市民が図書サービスをより身近に感じられるよう、図書取次拠点設置の考え方の柔軟化を検討

《従来》交通結節点や商業施設での設置を基本とし、サービス空白地域かつ多くの利用が見込める地域にある地区センター等の身近な公共施設においても設置を進める

《今後》交通結節点や商業施設に加え、地区センターなど市民により身近な施設との連携を市域全体で進め、「図書取次拠点」を設置することを検討

※図書取次拠点の個所数は、利便性、物流量増加への対応、費用対効果等の観点から総合的に検討

(2) 図書取次サービスを支える物流拠点の整備

図書取次拠点の増設に向けて、市内の各図書館・取次拠点に図書を集荷・配送するための大規模な物流拠点を、新たな大型図書館内に整備

柱2. 図書サービスへのアクセス性の向上

～図書サービスの密度と設置場所の現状～

- 図書サービスを身近に感じてもらえるよう、他都市に比べ低い図書館・図書取次拠点の設置密度の向上が不可欠
- 図書取次サービスの実施場所は地域によって偏りがみられ、空白地帯も多い

図書館・図書取次拠点1カ所あたりのカバーエリア面積



(各都市の人口集中地区 (DID※) 面積を図書サービスの拠点数で除して算出)

※ 都市の市街地の規模を表す指標。人口密度が4,000人/km²以上の区域 (国勢調査の基本単位区) が隣接し、人口が5,000人以上となる区域。

■ 図書館・サービスポイントの配置 (令和5年度)



【市立図書館が抱える主な課題】

施設が古く、管理運営のデジタル化が遅れているほか、他都市の図書館で見られるような、デジタル技術を活用したサービスの提供が十分ではない



- 地域館を含む市立図書館全館に、各館の設備や環境等に応じた、デジタル技術を活用したサービスを順次導入
- 技術の発展が非常に速いことを踏まえ、「試行」と「改良」を繰り返すアジャイル方式[※]で導入を進める

※ アジャイル方式 … 状況の変化により素早く対応するため、計画、設計、実装、テストの4つのフェーズを反復的に繰り返しながら開発を進める手法

(1) デジタル技術を活用した多様な体験の提供

■ 図書館との「接点」を拡大

これまで図書館を利用しなかった方にも興味・関心を持ってもらえる仕掛けの導入

(例) 誰もが気軽に選び借りられる電子書籍の拡充、 AIによるおすすめ絵本の紹介 等

■ 図書館の新たな価値の創造

これまでの図書中心のサービスでは実現できなかった、知の「創造」・「発信」につながる新しい体験の提供

(例) 五感に訴求する展示、 デジタル機器を活用した創造機会の提供 等

(2) より便利で使いやすい図書館の実現

管理運営の効率化と利用者サービスの向上につながる仕組みの導入

(例) ICタグによる蔵書管理、 自動貸出し・返却の実施、 案内業務へのロボット活用検討 等

柱3. デジタル技術の積極導入

～デジタル技術を活用したコンテンツ、サービスの事例～

- 開発段階も含め、デジタルを活用したコンテンツ、サービスは他都市の図書館等にも事例が存在
- デジタル技術の導入により、利用者サービスと管理運営の効率を大きく向上させることが可能

<導入検討コンテンツ、サービスの例（イメージ）>

図書館との接点を拡大

新たな価値の創造

便利で
使いやすい図書館

■ 電子書籍の拡充

- ・誰もが気軽に、来館せずに、選び借りることが可能

■ AIによるおすすめ絵本の紹介



- ・乳幼児の発達段階に応じてAIがおすすめ絵本を紹介

■ 臨場感のある読み聞かせ体験



- ・物語の世界をイメージした映像の中で読み聞かせ等を実施

■ メタバース図書館

- ・仮想空間に図書館を再現。物理的制約を超えて館内の探検や読書体験、イベントに参加

■ 空間再現による没入体験



- ・映像、立体音響等により、建物内で別の空間を再現

■ 触覚フィードバック体験



- ・小型のデバイスで触覚を人工的に再現。実際に触れることなく、様々な感触を体験

■ 3Dプリンター



- ・利用者が自分のイメージを形にすることが可能

■ デジタルを使ったオリジナル物語作成



- ・絵やテキストを選んで自分だけのオリジナルストーリーを作成

■ 自動貸出し機



- ・ICタグを活用し、利用者自身による貸出手続きが可能

■ 来館者案内ロボット



- ・館内の見回りや利用者の案内が可能な自走式ロボット